

# 写真展と対談

**写真展：鶴崎燃「海を渡って」**（第11回三木淳賞奨励賞受賞）

とき：2010年3月8日(月)～3月12日(金)午前8時30分～午後5時まで  
[3月8日(月)のみ12時スタート]

ところ：三鷹市役所2階市民サロン

**対談：鶴崎燃さん&鈴木則子**(NPO法人中国帰国者の会)

とき：2010年3月8日(月)午後6時から

ところ：三鷹市役所内 C-café

\*ドリンク(200円)を注文してください。



第11回三木淳賞奨励賞受賞作品  
鶴崎燃さんの「海を渡って」より

<鶴崎 燃展>より

満洲国の存在は歴史の教科書で習い、中国残留邦人のことも作者は子供の頃からニュースで知っていた。しかし、中国残留邦人は異国の地となった場所に取り残され、何十年後かにやっとの思いで帰国できた時には、言葉や年齢の事情もあり、いい仕事が見つからない。多くの人が今も生活保護を受けなければ生活できない状況だ。二世、三世の問題もある。

一方で、中国には今やたくさんの日系企業が進出し、多くの日本人が海を渡っている。かつて日本人によって造られた街や建物があちこちに残る満洲国の地も例外ではない。

「かつて海を渡った人の今」「今、海を渡った人」同じ時間に存在するこれらが、どうも繋がって見えない。過去が切り捨てられてきたからではないか。国が積極的にこの問題に取り組んでこなかったため満洲国の後遺症は個人に押し付けられている。

過去の経験は共有し、未来へつないでいかなければいつかまた何か別の形で後悔する時が来るのではないだろうか。

カラー55点。

鶴崎燃(つるさき・もゆる)さんは、「中国残留邦人」をテーマにした作品「海を渡って」で第11回三木淳賞奨励賞を受賞されました。若いカメラマンがなぜこの問題に関心を持たれたのか、この問題を撮りつづけるなかで感じられたこと、取材で訪れた中国や長野県でのエピソードなどを伺います。

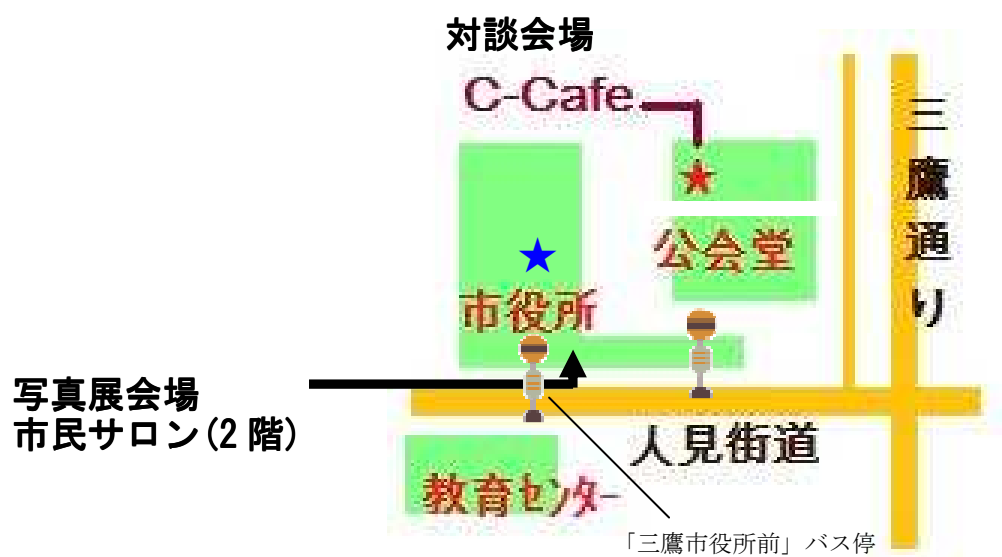
若い世代の人たちはこの問題をどのようにとらえているのでしょうか。また、今、この問題が私たちに訴えかけているものは何でしょうか。(この企画は中国残留邦人地域生活支援事業として行います。)

主催：NPO法人 中国帰国者の会 <http://www.kikokusha.com/>

後援：三鷹市

連絡先：03-3353-0841(味岡・加藤)

## 会場案内図



### 所在地

東京都三鷹市野崎 1-1-1

電話 0422-45-1151(三鷹市役所)

0422-45-1230(C-café)

### 交通アクセス

JR 三鷹駅南口 7 番バスのりばから

〈鷹 54〉仙川・杏林大学病院・晃華学園東行き(約 10 分)

「三鷹市役所前」下車

- ・お車でお越しの方は、市役所駐車場をお使いください。